

陳情第78号	受理年月日	令和4年3月7日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	市街化区域から市街化調整区域への区分見直しの撤回について	
要旨	<p>私たちは令和3年12月17日に、門司区大里の市街化区域から市街化調整区域への区分変更を考える会を結成し、子々孫々まで安全・安心して住み続けられるまちづくりを目指すため、門司区の市街化区域から市街化調整区域への区分変更を白紙に戻す活動をしている。</p> <p>令和4年1月19日の永黒中町内会、同月28日の朝日ヶ丘町内会の説明会などでは、「二十数年前に購入した中古住宅のローンを払い終えたときに土地の価値がゼロになるのはきつい。私の20年を返してほしい。この先のローンを払ってほしい。」「私のところは250メートルメッシュ評価点数が同じ敷地で高いところと低いところがクロスし、矛盾が起きていて、腹が立つ。バス停や郵便局、コンビニ、スーパーがあり、昭和28年大水害のときも被害がなく、浸水もなかった。同じ家でこっちがよくて、こっちが悪いということはないのではないか。借地だったところを退職金で買って、子供に相続したいのに、調整区域になって財産が目減りするのは嫌だ。」「市は奥田のことがきっかけと説明しているが、奥田は自然災害という位置づけなのか。災害があった山には送電線鉄塔があるが、基礎部分の下部が崩れた。その原因を大学の先生が調べていると聞いている。一概に自然災害と言えるのだろうか。災害と送電線鉄塔の因果関係が明確になっていない。奥田がきっかけで日本でも初めての施策を始めたが、市は送電線鉄塔と地すべりの因果関係を調査してほしい。むしろ調査結果を踏まえてから市街地を広げない施策をしても遅くなかったのではないか。」「朝日ヶ丘は災害マップやレッドゾーンにも入っておらず、今までどおりのコミュニティーを十分維持できる環境にある。バス停も近いのになぜ調整区域候補地なのか。ボーリング調査もせず、見た目で判断したことに憤りを感じる。本当に安全・安心な町を目指しているとは到底思えない。市民の生命を守るなら、市民の財産とセットで考</p>	

えてほしい。」など様々な意見が出され、計画の白紙撤回を求める意見が次々と出ている。

については、下記のとおり措置されたい。

記

- 1 市街化区域から市街化調整区域への見直しを白紙撤回すること。
- 2 安全・安心して住み続けられるまちづくりのために、崖地などの災害防止対策をさらに強化すること。